

さとうりさ Risa Sato (日本)



プレイヤー エイリアン
アートプログラム参加作品「player alien」 会場：グローバル・コモン1

北ゲートに最も近く、センターゾーンである愛・地球広場に隣接したグローバル・コモン1（東南アジアを除くアジア）に、キャラクター作品「player alien(プレイヤー・エイリアン)」を展示します。

愛おしくもあり、ユニークでもあり、楽しそうにも、一見寂しそうにも見えるこの表情豊かなキャラクターは、複数のピースから構成されています。そのピースのひとつが、同会場の別の場所にぽつんと落ちて作品は完成します。



コモン1会場図



さとうがこの作品に辿り着いた理由は、「欠けていても生きていいよ。」という言葉。程度の差こそあれ、人はそれぞれ自分のどこかが欠けていると感じながら生きており、誰もが完璧に備わることのないエイリアンなのだ、と彼女は語るのです。

完璧でないことを知りながら、それでも人はどこかで「完璧」を求めて彷徨い、自らの行き先を探していくー 欠けたピースにその姿を象徴させた同作品は、新たな「自分探し」のあり方を問うものと言えます。



さとうりさ Risa Sato

1972年 東京都に生まれる
1999年 東京芸術大学大学院修了

「りさ・キャンペーン」という作品を使ったパフォーマンスを、国内外で実施。独特のコミュニケーション手法が注目される。フィリップモリスアートアワードファイナルセレクション（1998年、有楽町国際フォーラム／東京）、パルコアーバナート#7 グランプリ受賞（1998年、パルコ／東京）。2000年フィリップモリスアートアワードグランプリ受賞（2000年、ガーデンホール／東京）。

さとうりさ

[過去の作品]



「tete bear」／2003

フランス語で小さい子が使う「オッパイ」という意味の音からネーミング。どこかグロテスクで怖いけど、やっぱり触りたい「全身女性」のオブジェ。



「Risa Campaign vol.11-working now-」／2000

人が自分の部屋でぼんやり考えごと（妄想）をしている様子を描いたオブジェ。そんな時間こそ、何かを生み出すため、動き出すための重要な時間であると考え、制作をおこなう。